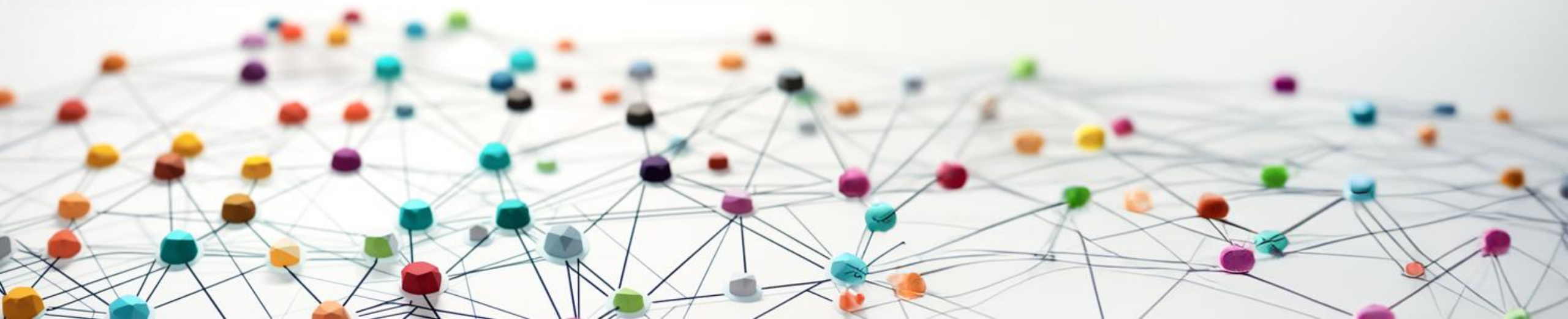


# 2026年3月期 通期決算補足資料

2026/5/14

株式会社ピーバンドットコム

東証スタンダード / 名証メイン：証券コード：3559



# 目次

01 - 2026年3月期 通期決算 概要

02 - 2027年3月期 業績予想

03 - 株主還元について

EX - ご参考資料

# 01

## 2026年3月期 通期決算 概要

# 総括：「収益構造の進化を確認した一年」高付加価値化により増収増益を達成

## 通期業績ハイライト

### 売上高

**2,311**百万円  
(前期比+6.0%)

### 営業利益

**190**百万円  
(前期比+21.2%)

### 経常利益

**187**百万円  
(前期比+17.4%)

### 当期純利益

**106**百万円  
(前期比△5.8%)

## 売上構成の変化（利益レバレッジ向上）

### [ 質的变化 ]

- ・ 中堅・大手顧客層の利用拡大・設計
- ・ 実装など高付加価値サービスの利用増



### [ 利益率改善 ]

・ 売上総利益率 36.2 % → 37.8 % **< +1.6pt >**



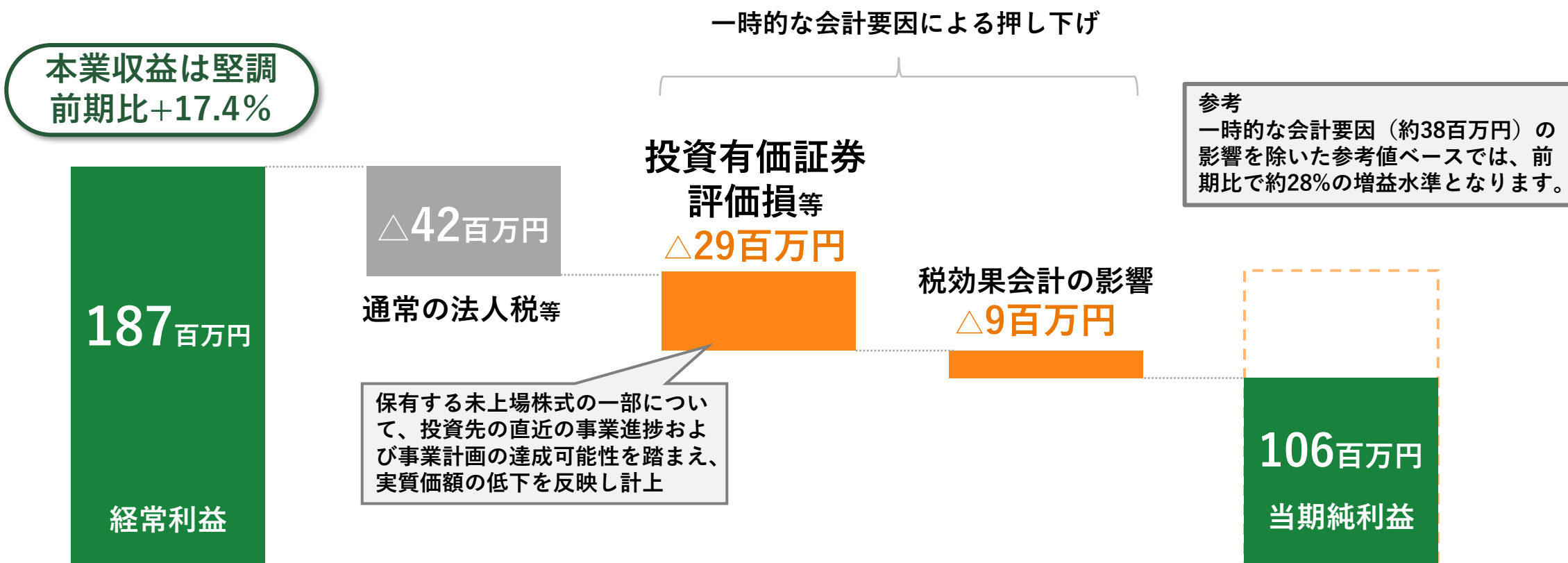
### [ 成果 ]

売上成長(+ 6.0 %)を大きく上回る  
営業利益成長(+ 21.2 %)を実現

※当期純利益は、一時的な会計要因による押し下げ影響38百万円を含みます。

## 【補足】 当期純利益に影響した一時的な会計要因

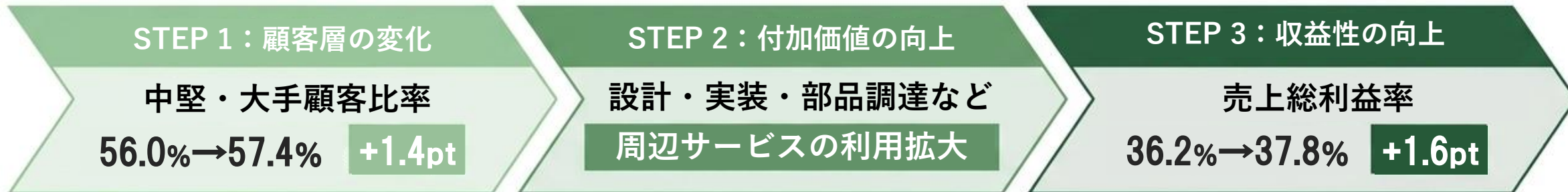
売上高・営業利益・経常利益はいずれも増収増益を達成しており、実質的な稼ぐ力は着実に向上



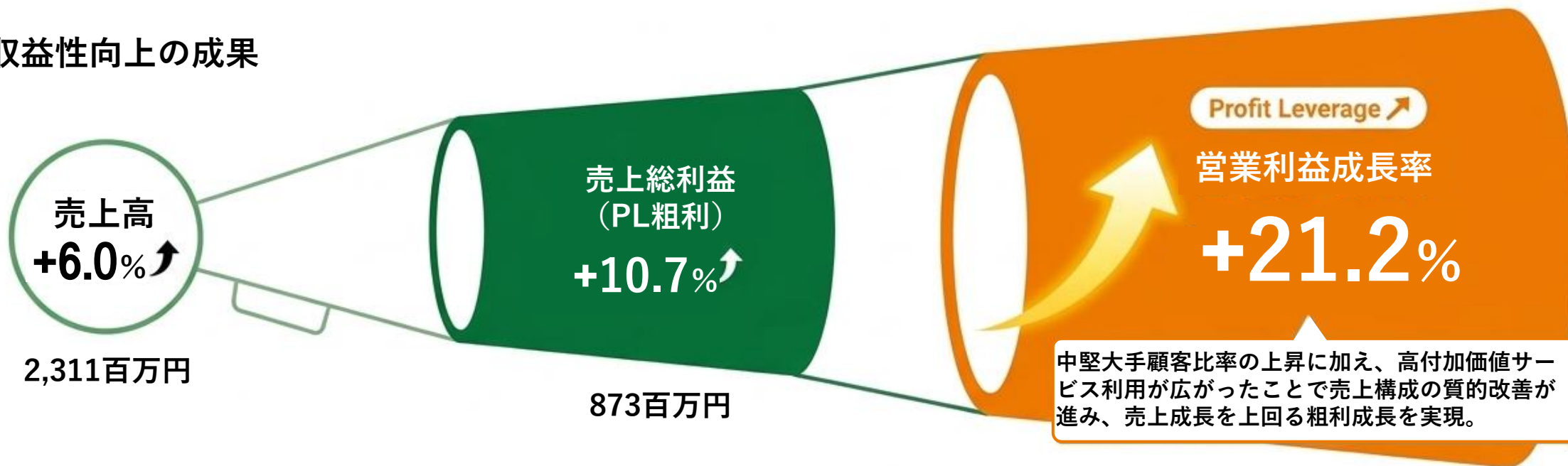
※通常法人税等の額は、法人税等合計51百万円から、減損損失に係る繰延税金資産未計上影響9百万円を除いた金額です。

# 顧客層の質の変化と高付加価値化が粗利率改善を牽引

## 収益構造改善のプロセス



## 収益性向上の成果



# 当期の重点施策総括

足元の収益力強化、将来への布石、そして資本市場との対話。3つの柱を確実に実行し、持続的な企業価値向上を推進しました。



**【足元の収益力強化】**  
顧客体験・収益性の向上

- AIブロック図自動生成**  
設計工数を削減し、開発効率を向上
- 1-Click見積りリニューアル**  
伴走型サポートにより顧客単価・継続率の向上を推進
- カスタマーサクセス体制強化**  
伴走型サポートにより顧客単価・継続率の向上を推進
- 納期短縮とデリバリーゼロ**  
標準納期短縮と最短当日納品を実現



**【将来への布石】**  
グローバル・次世代領域への展開

- タイ拠点「p-ban Thailand」開設**  
現地の営業網・物流を活用しASEAN展開を始動
- ROHM/TOPPAN等との協業**  
パートナー連携により次世代領域における価値を創出
- AI/EMC技術セミナーの開催**  
「製造」だけでなく「設計・開発」の上流工程へ拡大



**【資本市場との対話】**  
ESG・IRを通じた企業価値向上

- 基板リサイクルプロジェクト推進**  
環境負荷低減(CO<sub>2</sub>・産廃削減)と障がい者支援を両立
- 名証IRエキスポへの参加**  
イベント出展を通じて投資家との直接的な対話を拡大
- 積極的なIR情報の発信**  
IR noteマガジンや動画対談などを通じ、会社の魅力を継続発信

持続的な  
企業価値向上へ

# 海外事業展開：「基板＋実装」モデルによるタイ市場開拓

## 巨大な成長市場の取り込み

タイPCB市場規模



政策的後押し (Thailand 4.0 / 次世代自動車・スマートエレクトロニクス)。試作・小ロット基板の需要が急伸。

## 事業モデルの進化：サービス範囲を拡大



現地の基板実装工場と強固に連携。ユーザーへ「基板製造＋実装」のワンストップ展開を開始し、顧客単価の向上と継続利用を促進。

## タイ市場攻略を支える3つの事業基盤



### 1. 基板＋実装の一体提案力

基板単体ではなく、現地ニーズの高い実装サービスまで含めて提案。開発・試作工程を一括支援し、競争力と顧客単価の向上を実現。



### 2. 強固な現地パートナーシップ

現地の実装工場・物流・営業パートナーと連携。製造から実装、配送、顧客対応までを最適化し、事業展開の実効性を高める。

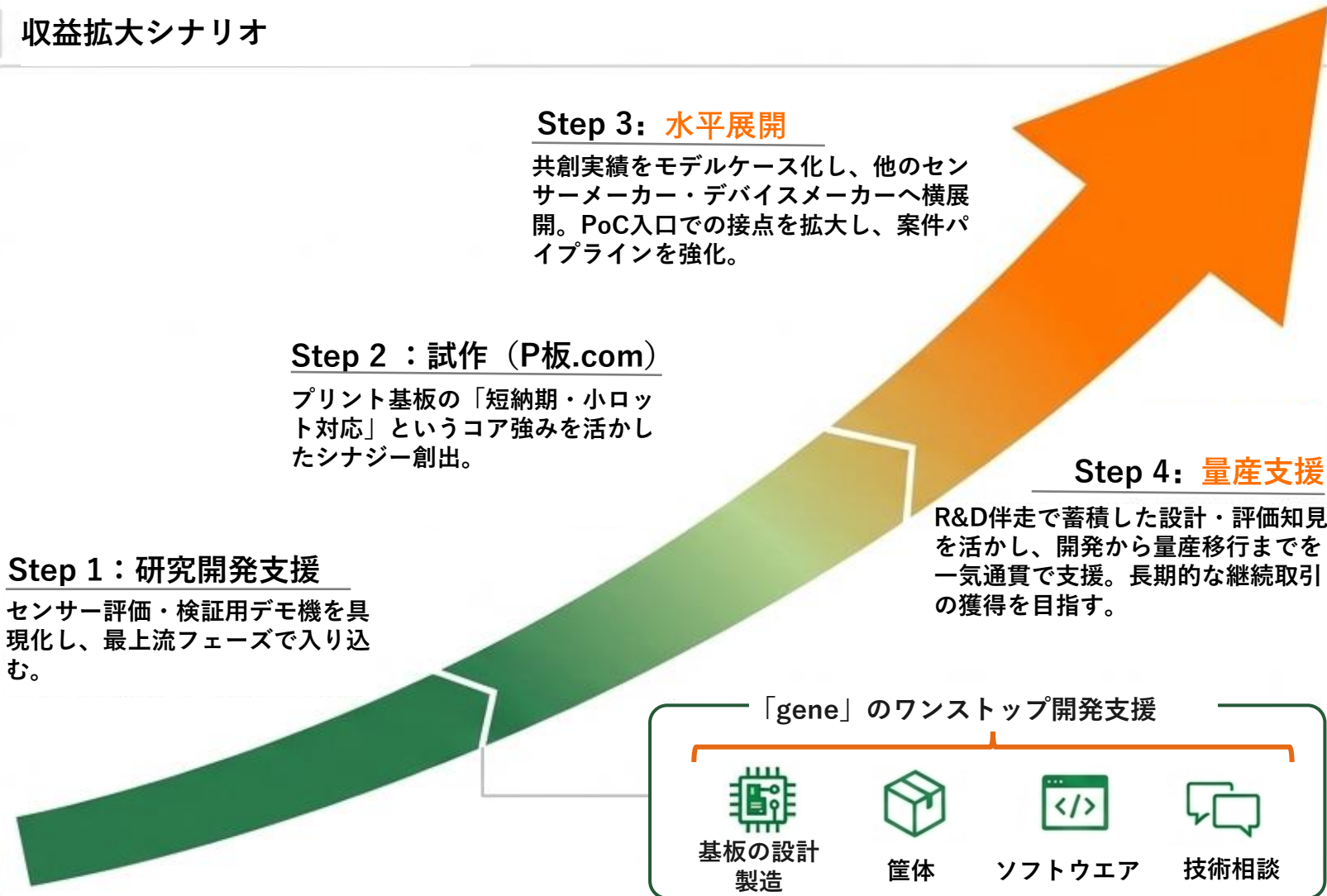


### 3. 日本基準の品質と現地最適化

国内外のパートナー網を活用し、日本基準の製造品質を担保。タイ語・英語対応や現地商習慣への対応により、利用しやすい取引体制を構築。

# 他社との共創：評価用モジュール「gene」事例

## 収益拡大シナリオ



### 共創事例

共創パートナー：TOPPANホールディングス株式会社

対象：次世代センサーの評価用モジュール

国家規模で重要度が増す  
技術領域へ展開

(半導体・宇宙開発・次世代モビリティ・防衛・医療など)



対談動画公開中 (YouTube IRTV)  
～開発から製品化までを一気通貫で支援～

# 02

## 2027年3月期 業績予想

# 売上成長を継続しつつ、**戦略的再投資**を織り込んだ計画

売上高

**2,410**百万円

前期比 +4.3%

営業利益

**191**百万円

前期比 +0.4%

経常利益

**187**百万円

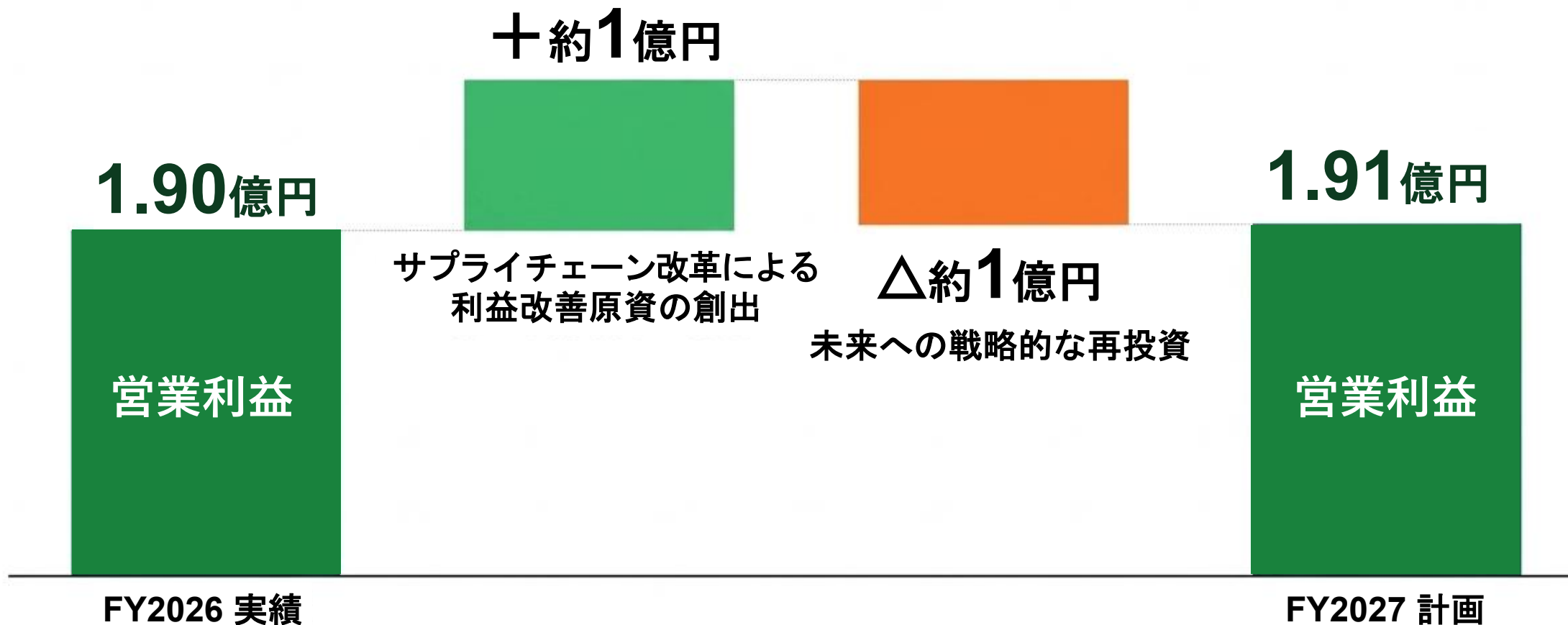
前期比 +0.1%

当期純利益

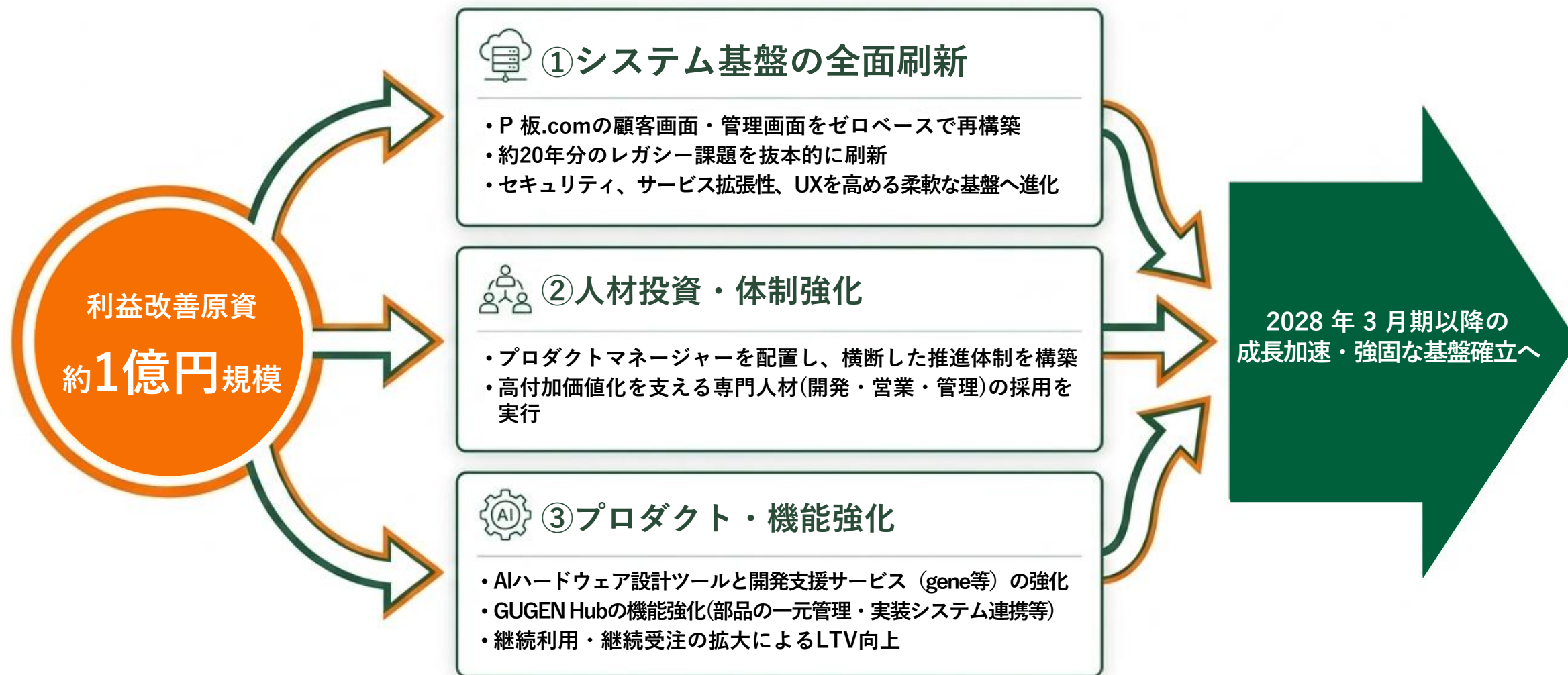
**128**百万円

前期比 +20.9%

# 実質的な「稼ぐ力」は約1億円向上。未来の成長へ全額再投資へ



# 戦略的再投資: 3つの重点領域



# なぜ今、システム基盤の「全面刷新」なのか

## 20年分のレガシー課題（部分改修では限界）



### 拡張性の限界

複雑化したシステムの延命では、新サービス追加や高負荷対応が限界。



### セキュリティリスク

後付けの対策となり、最新のAIサイバー攻撃や地政学リスクへの対応に課題。



### UI/UXの分断

顧客画面と管理画面の分断など、古いUI/UXの根本的解消が困難。

## ゼロベース 全面刷新 (最適なタイミングと判断)

## 全面刷新のインパクト（足元の収益力強化の基盤へ）



### 柔軟なサービス拡張

ゼロベース構築により、GUGEN Hubなど多様なサービス拡張に耐える柔軟な基盤へ進化。



### 強固な情報管理

設計・購買データの安全管理をアーキテクチャの根幹から組み込んだ強固な情報管理基準を実現。



### モダンな統合UI/UX

顧客に直感的な利便性と圧倒的な処理速度を提供する、モダンな統合インターフェースへ刷新。

【足元の収益力強化】  
顧客体験・収益性の向上



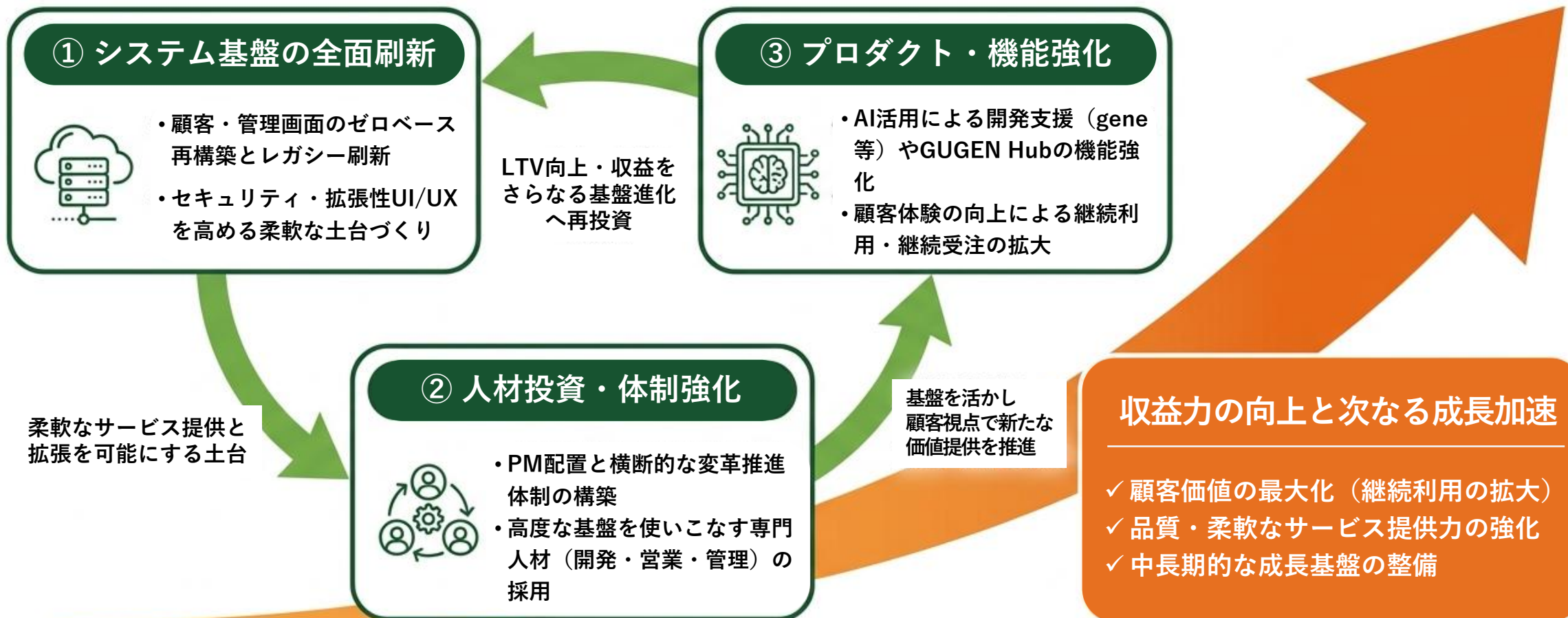
持続的成長  
Sustainable Growth

【将来への布石】

グローバル・次世代領域への展開

# 戦略的再投資の全体像:基盤・人材・プロダクトの一体強化

システム基盤の刷新を土台に、人材投資とプロダクト強化を密接に連動させることで、  
2028年3月期以降の飛躍的な成長と収益力向上を実現します。



# 03

## 株主還元

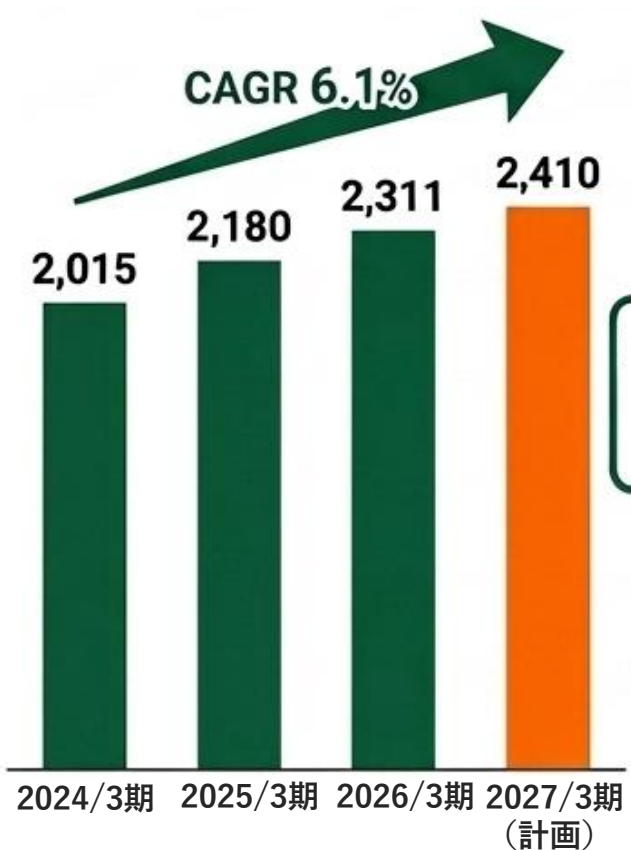
(堅実な成長と株主価値の向上に向けて)

# 計画 堅実な売上高成長と利益の推移

計画的な成長戦略により、稼ぐ力が着実に右肩上がり推移

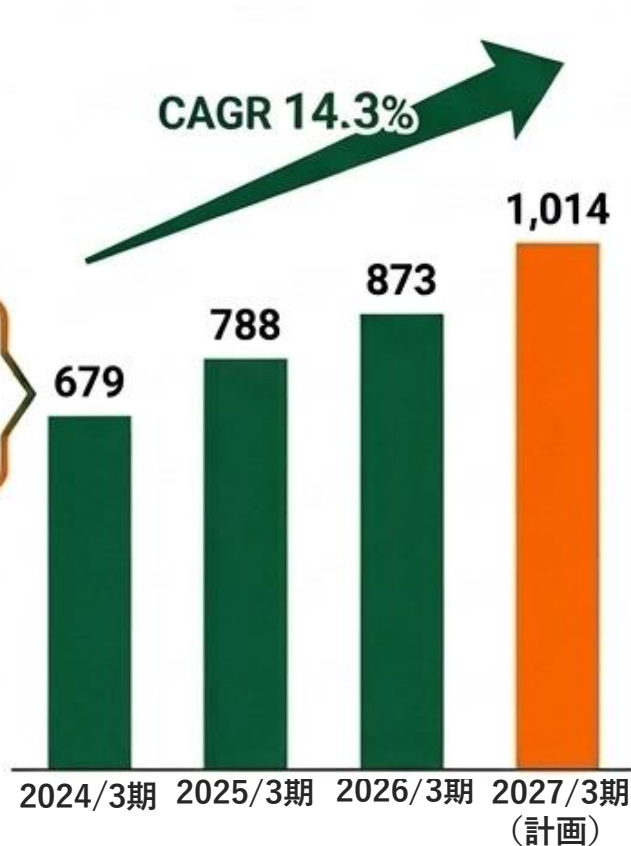
## 売上高

(単位：百万円)



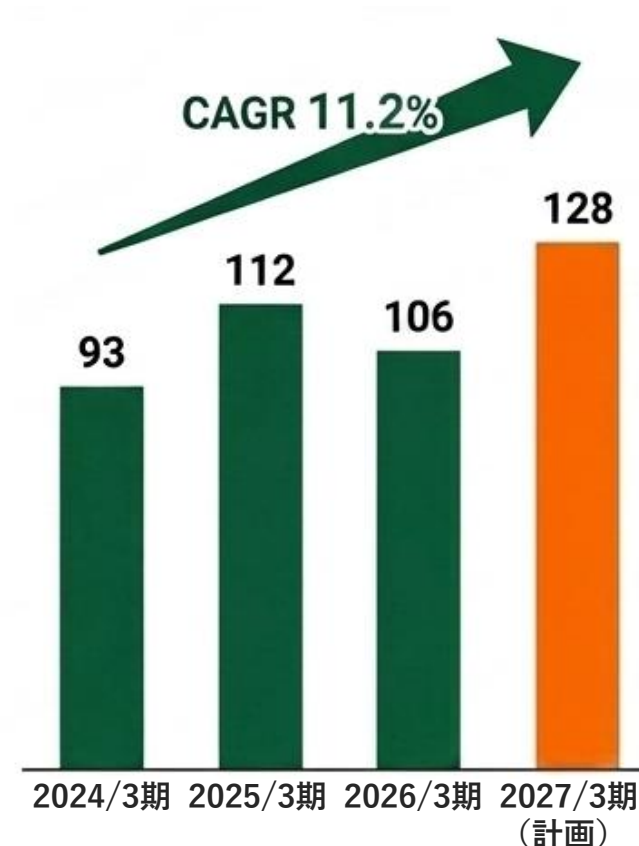
## 売上総利益

(単位：百万円)



## 当期純利益

(単位：百万円)



売上高成長  
<  
利益成長

## 還元策 株主価値向上に向けた実行策と還元方針



中期経営計画の推進による  
確実な収益拡大



安定的かつ継続的な  
株主還元



M & A による  
事業拡大



コーポレートガバナンス  
の強化



IRの積極展開による  
株主・投資家理解の促進

### 配当方針・直近実績

配当性向 **30 %以上** の継続を目標

26/3 期期末配当： **1 株 10円**

27/3期 配当予想： **1 株 10円**

「成長投資と株主還元のバランスを取りつつ、安定還元と増配を志向」

資本効率の向上と継続的な株主還元により、資本コストを上回る企業価値の向上を目指す。

# ご参考資料

# 成長戦略を実行できる 事業基盤

体制

# 持続的成長を加速させる「両利きの経営」



## 既存事業の深化

中核事業である  
プラットフォームの  
継続的な強化と効率化



## 新規事業の探索

事業創出のノウハウと  
ネットワークを活用し、  
新たな成長ドメインを  
開拓

強み

## 成長が続く脱炭素、自動車、半導体関連

常に市場をリードし続ける大手企業の要求に応え、  
アイデアを素早くカタチにする弊社サービスの価値が高まっています。

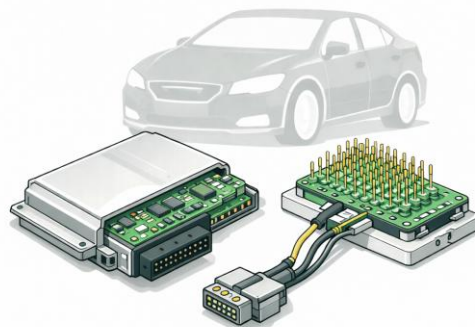


## 脱炭素ソリューション

シムックスイニシアティブ株式会社  
工場向け エネルギー  
コントロールデバイス  
P板.comの貢献



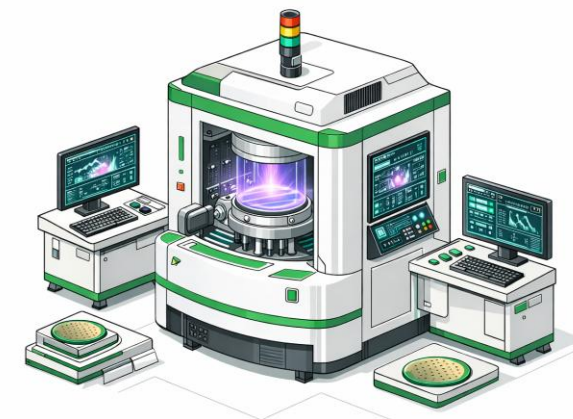
・試作開発から、数万台数の製品量産まで一括で対応。長期に渡るパートナーシップを構築。

国内大手自動車部品メーカー  
(グローバルTier1)

世界中の自動車メーカーに幅広い  
製品・システムを供給

P板.comの貢献

・突発的に発生する試作案件にも対応し、必要なタイミングで基板を手配できる体制として社内利用が拡大。



## 半導体製造装置メーカー

国内大手・世界トップクラス  
プラズマエッチング装置の開発・製造  
P板.comの貢献

・海外ECを使いにくい中、品質・機密面で安心できる国内調達先として選ばれ、設計ノウハウの保護にも寄与。

強み

## 宇宙開発の最前線で選ばれる信頼性

過酷な環境下での動作が求められる宇宙分野において、民間企業から国立研究開発法人、大学研究機関まで幅広く採用されています。



## 民間商用衛星

株式会社アクセルスペース  
(AXELSPACE Corporation)  
WNISAT-I



P板.comの貢献  
通信系基板等に採用。コスト削減と短納期で、民間宇宙開発のスピード感あるプロジェクト進行を支援。

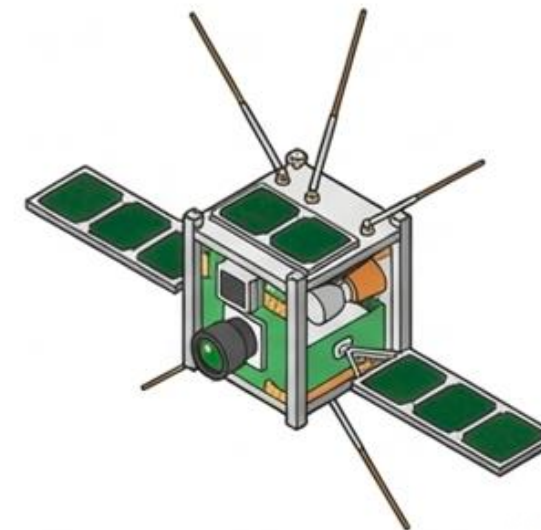


## JAXA

宇宙航空研究開発機構  
(Japan Aerospace Exploration Agency)  
Int-Ball (きぼう船内ドローン)

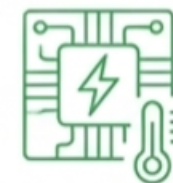


P板.comの貢献  
超小型三軸姿勢制御モジュール用基板を製造。1辺30mm級の高密度実装を実現し、ドローンの小型化に貢献。



## 大学研究機関

東京工業大学 松永研究室  
TSUBAME  
P板.comの貢献



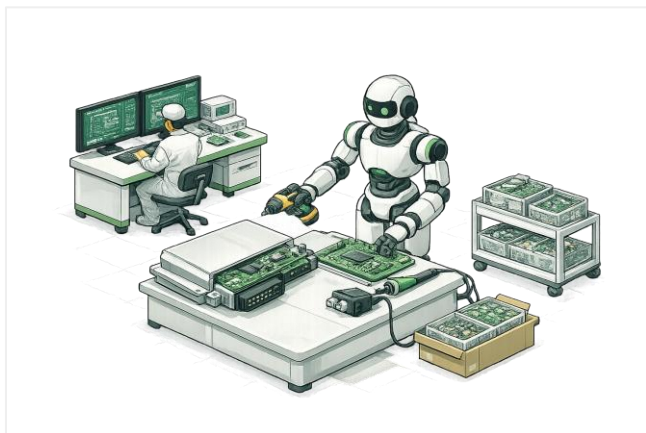
電源系基板の製造・実装。高電圧・放熱対策など厳しい宇宙環境基準をクリアする品質を提供。

強み

## 過酷環境と医療領域に耐える品質

深海や医療といった、極めて高い信頼性が求められる最先端分野。

P板.comは、製品開発において、確かな品質と手厚いサポート体制で技術革新を支えます。

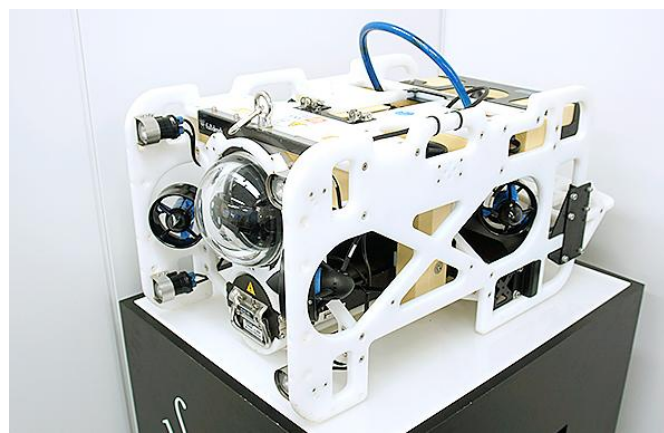


## 協働・ヒト型ロボット メーカー

国内ロボティクスのパイオニア

P板.comの貢献

・試作→製品化で必須となる材料証明ニーズに対し、調達～在庫管理（余剰部品含む）まで手間なく管理できる。



## 深海探索ドローン

株式会社 Full Depth  
産業用水中ドローン  
「DiveUnit300」

P板.comの貢献

・過酷な環境で動作する品質：水深300mという過酷な環境で稼働する産業用ドローンに求められる、高い信頼性を備えた基板を製造。



## 医療用BMI（ブレインマシンインターフェース）

株式会社LIFESCAPES  
脳科学×AI技術で重度麻痺を克服するデバイス

P板.comの貢献

・医療機器認証を支える納期遵守：製品販売の遅れに直結する認証機関の試験スケジュールを厳守。確実に信頼を獲得。

# 市場規模 事業環境

# メガトレンドを追い風に、社会インフラ需要を取り込む

## 持続的成長を牽引する5つの注カドメイン



### EV (電気自動車)

自動車の電装化による基板搭載量の爆発的増加。



### 脱炭素・再生可能エネルギー

スマートグリッドや次世代エネルギー管理システムへの移行。



### AI・DX

データセンター拡充と高度な情報処理インフラの構築。



### 宇宙開発

民間主導の宇宙ビジネス拡大と衛星通信ネットワークの構築。



### ロボット・ドローン

自動化・省人化ニーズを背景とした産業用・サービス用ロボットの普及。

## The Quantitative Impact

CAGR 約 **5.0%**  
(2025-2037年)

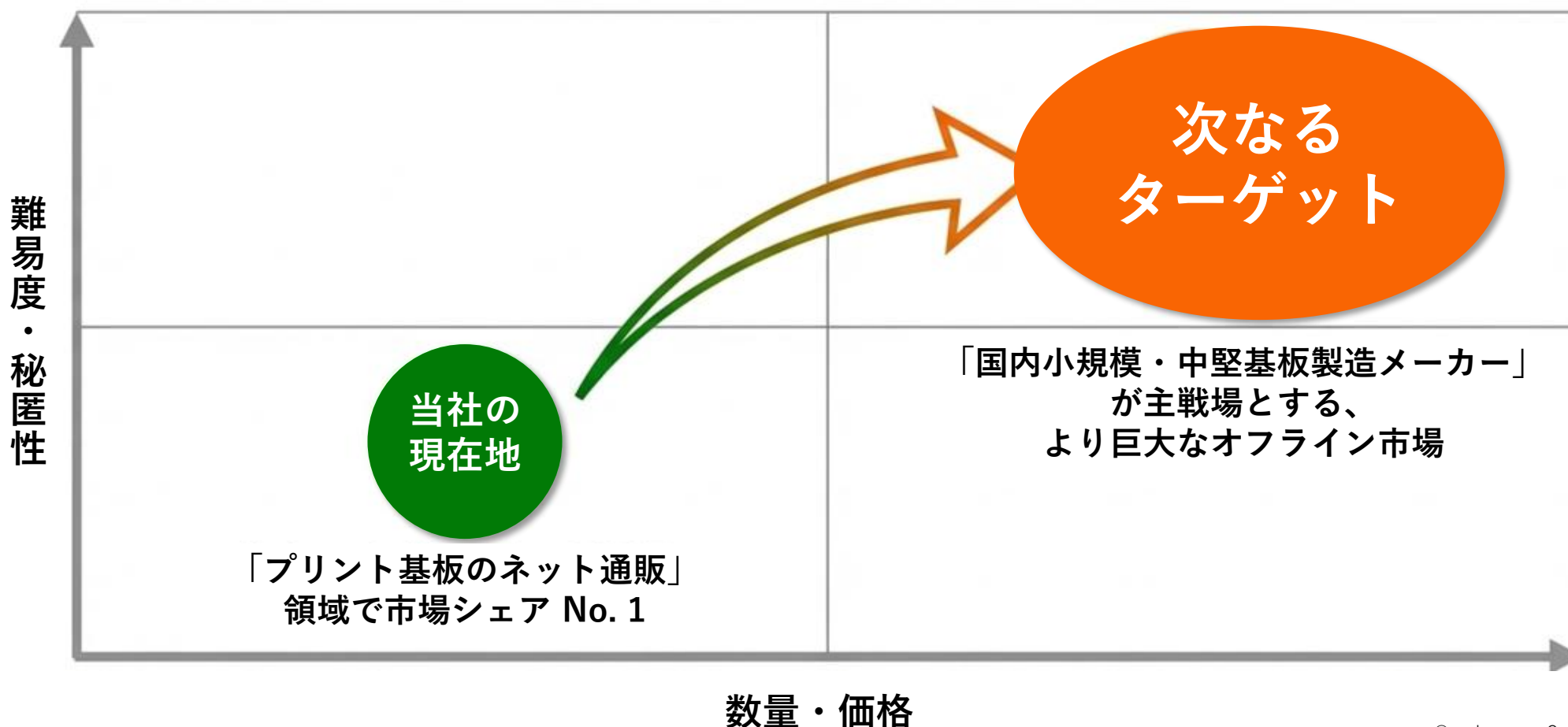
市場規模 **1.8倍**へ拡大  
(2037年時点)



次世代テクノロジーの進化を支えるプリント基板 (PCB) 市場は、安定的かつ飛躍的な拡大フェーズに突入

# 業界No.1ポジションと、未開拓市場への大きな成長余地

ネット通販市場で確固たる地位を築きつつ、今後は従来型の取引が中心の、より大きな市場への展開を加速します。

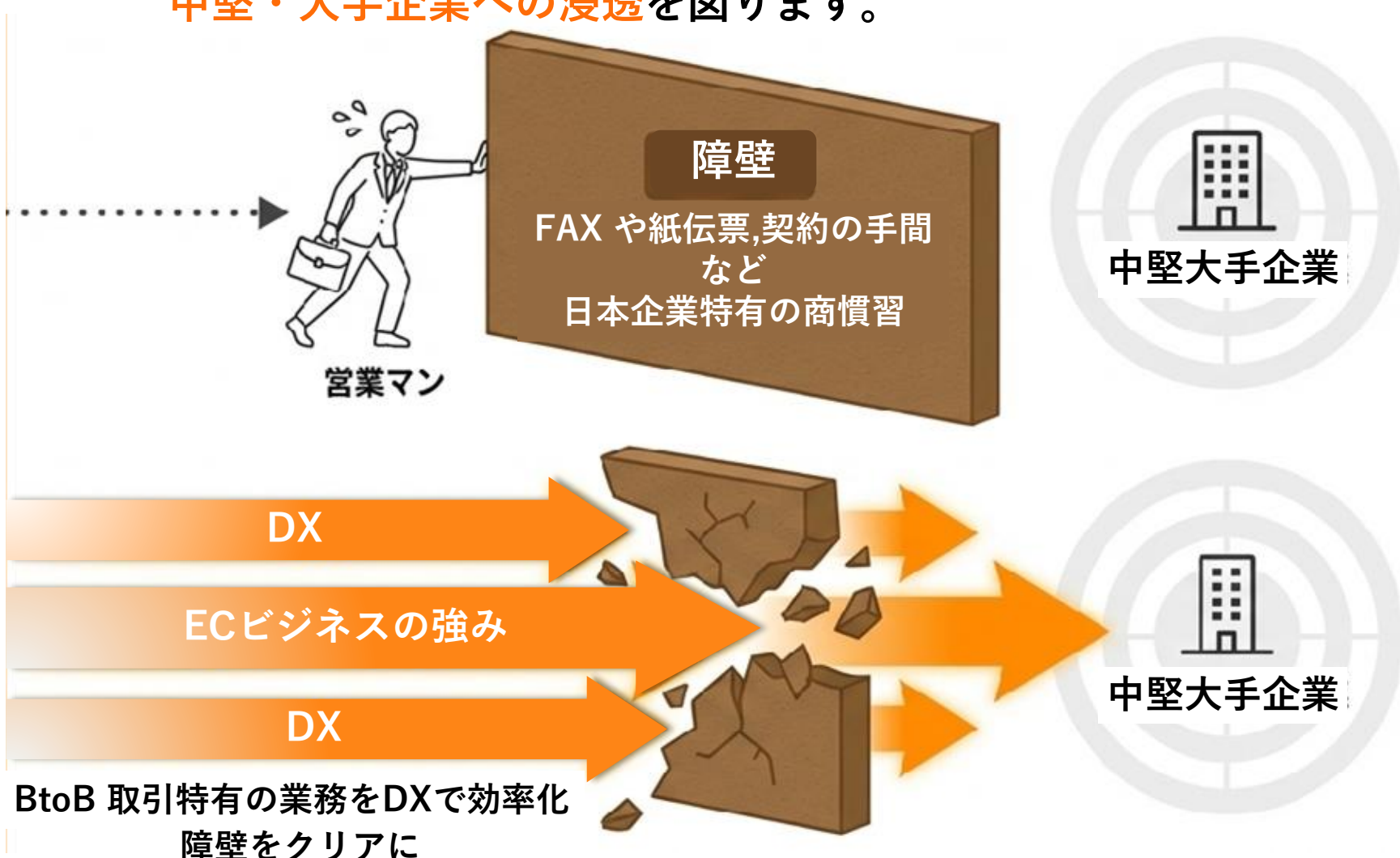


# 成長戦略

戦略1

# DXを武器に、中堅・大手企業の商慣習の壁を超える

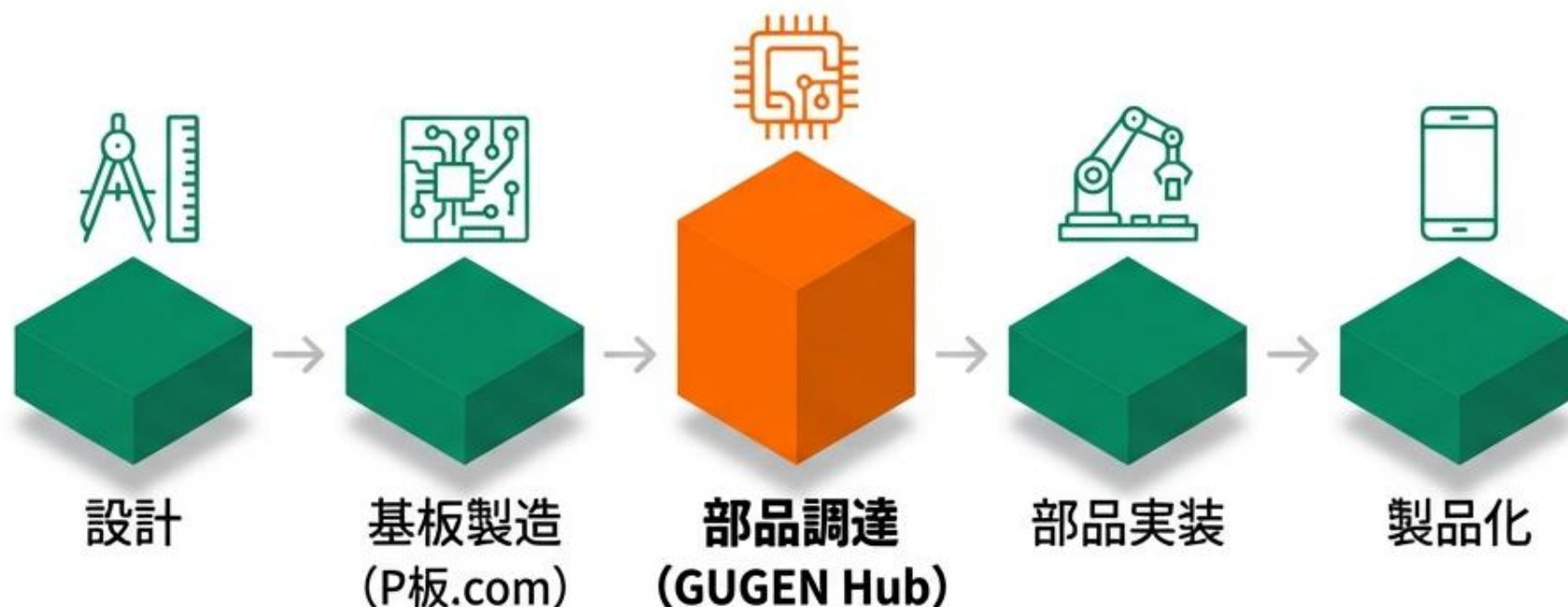
日本企業特有の取引プロセスをDXで効率化することで、これまで参入障壁となっていた  
**中堅・大手企業への浸透**を図ります。



BtoB 取引特有の業務をDXで効率化  
障壁をクリアに

## 戦略2 基板の次は、部品。必然の成長戦略

基板を作るお客様は、その基板に載せる**電子部品を必ず購入**します。  
つまり、**基板製造と部品調達は需要として100%セット**で発生する市場です。



この不可欠な中核工程を当社サービス内に取り込むことで、  
**一気通貫サービスの価値が最大化**します。



### 圧倒的な顧客基盤

基板 EC 国内 No.1 として築いた**3万社超**の顧客基盤が、部品調達サービスの強力な入口となります。

戦略3

# 試作から量産までを支える「仕組み×人」



仕組み：試作から量産までを支える基盤

ピーバンドットコム  
P板.COM GUGEN Hub

【見積・受発注】

【部品管理】

【実装連携】

【量産対応】

「仕組み」で支え、「人」で転換を強め、継続受注・収益化へ。

変革

ピーバンドットコムの「第二の創業」

# GUGEN Hub

20年の実績を礎に、**製造業の未来インフラ**  
[GUGEN Hub] を構築

GUGEN Hub = 日本の電子製造業を再定義する開発 OS

変革

# 50年に一度の歴史的潮流が巨大な市場機会を創出

## 開発は「個社完結」から「エコシステム内分業」へ移行

### ① 製造業国内回帰

ものづくりの拠点が日本に戻り、円安と地政学リスクを背景に製造業の工場国内回帰が本格化。

### ② 政府研究開発投資30兆円

5年間で30兆円（官民合わせて120兆円）の超大型投資により日本の技術革新はかつてない加速局面へ。

出展：第6期科学技術・イノベーション基本計画

### ③ 世界標準「共創エコシステム」への転換

無秩序なオープンではなく信頼と規律に基づき設計された共創へ。



研究・開発のスピードアップ  
市場機会の増加



## 試作ニーズの急増加

(プリント基板需要の高騰)

**変革** 解決策：設計・部品・製造を統合する「電子製造 OS」

研究・開発の**スピードアップ**をサポートするために誕生  
ハードウェア開発をソフトウェア開発のように変革



**部品調達の自動化** 

最適な価格と納期の部品を、国内外のサプライヤー網からワンクリックで発注。

**設計との連携** 

CADデータを直接インポートし製造可能な部品リストをAI自動生成。

**製造のオンデマンド化** 

基板製造から実装まで、最適な工場をリアルタイムにマッチング。

部材管理、設計情報、製造データを一気通貫で管理  
**製造データを企業の「資産」へ**

## 自己成長するプラットフォーム（フライホイール効果）

GUGEN Hubは、取引データが増えるほどAIを研ぎ澄まし  
利用者の増加がそのまま「資産成長」に直結するエコシステムとなる

### ユーザー増加

利用者と製造パートナーが増え、データの量と質が向上し、さらに多くのユーザーを惹きつける。

### データ蓄積

あらゆる取引（設計、部品、製造）が構造化データとして蓄積される。

### ユーザー体験向上 *Ux*<sup>®</sup>

より速く、安く、高品質な調達体験が実現する。

### AIによる最適化

蓄積されたデータをAIが学習し、調達の精度と速度を継続的に向上。

**GUGEN Hub**

**変革** なぜ、我々だけがこの「OS」になれるのか

ピーバンドットコムが持つ独自のポジション

1

**サプライヤーネットワーク**

創業20年、国内外を網羅。ものづくりの未来をつなぐ、信頼のサプライヤーネットワーク。

2

**開発者コミュニティ (取引実績3万社超)**

幅広い業界のエンジニアが利用する国内でも有数の開発者、コミュニティを形成。

3

**膨大な取引数とアルゴリズム**

膨大な取引数におけるデータから品質・納期・コストを最適化するアルゴリズム。

参入障壁



電子製造OS

**GUGEN Hub**

ONLY ONE

3つがつながることで、当社だけが  
持てる“参入障壁”が生まれ  
競争優位を形成

弊社IRに関する情報やご質問は  
下記IRページよりお願いします。

ピーバン IR



<https://www.p-ban.com/corporate/ir/>

## 本資料の取り扱いについて

本資料には、将来の見通しに関する記述が含まれています。これらの記述は、当該記述を作成した時点における情報に基づいて作成されたものにすぎません。

さらに、こうした記述は、将来の結果を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。

実際の結果は環境の変化などにより、将来の見通しと大きく異なる可能性があることにご留意ください。

上記の実際の結果に影響を与える要因としては、国内外の経済情勢や当社の関連する業界動向等が含まれますが、これらに限られるものではありません。

また、本資料に含まれる当社以外に関する情報は、公開情報等から引用したものであり、かかる情報の正確性、適切性等について当社は何らの検証も行っておらず、またこれを保証するものではありません。